

# 東京

## 「其の日」暮らじ



### アパートのじい

ドイツで暮らし始めてからあつという間に時が過ぎていきます。こちらは乾燥しているので、外気温が30度あつても家の中の日の当たらない場所は驚くほど涼しいのです。家とは言っても、今の時点でアパートは決まっていないのでゲストハウスの共同の居間のことなのですが・・・

そう、家はまだ無いのです。ゲストハウスに確実に住めるのは6月末まで。最初の二ヶ月は直接不動産屋さんからの紹介を待つだけでなく、ゲストハウスの友達にインターネットを使って探す方法を教えてもらって、早速、何軒にも連絡を入れたのに、待てど暮らせど連絡がこない。こんな物かと思っていたら、日本から来てくれた応援隊が電話で問い合わせをしてくれたら、なんと短時間で良い家がポンポン見つかり、いざ契約。という段階で大家さんの審査に落ちてしまいました。そして3ヶ月目のいま、「英語でコミュニケーションを取る練習」と思ってたんだ電話攻撃をしています。そう思うとだんだん電話するのが楽しくなってくるのです。中学・高校の英語の時間に味わった苦痛が嘘のよう・・・

ドイツのアパートはほとんどと言っていいくらい地下室があります。そこには各家専用の物置、洗濯場兼干し場になっています。たまに地下にも部屋がありそこも住居として普通に利用されています。湿度の高い日本では考えられない作りなのです。建物自体も日本のマンションのような四角く平べったい屋根ではなく、三角屋根の家ばかり。その屋根裏に当たる場所もシッカリ住居として活用されています。大げさに言うとも一つの家に少なくとも3〜4家族は住めるのです。三角屋根の町並みはとてもヨーロッパの雰囲気を感じ出しているのですが、いざ屋根裏の部屋を紹介されたときは「ヤッパリ屋根裏やん」と思うような天井の家から、そんなに屋根の傾斜が気にならない物まで、いろんな種類の部屋がありました。最初は「屋根裏部屋なんてハイジの世界みたいでステキ」と思っていました。最近「ヤッパリ住むのは屋根裏じゃないところが良いなあ」と思っています。

インターネットのアパート紹介欄に書かれている「家の



設備」の項目にキッチンと書かれています。「キッチン付いているのはあたりまえやん」と写真を見ると、キッチンの写真なのにキッチン設備がすっぽり無く水道栓しかないのです。ちよつとびつくりしました。日本では台所の洗い場は付いていて普通と思っていました。こちらでは各自で取り付けをしなければいけない場合があるのです。聞くところによればキッチンごと引っ越しをするらしく、前の人が置いていったキッチンをそのまま使わせてくれる時もありますが、たまに有料の場合もあります。色々見ればみるほど自分の希望がハッキリしてきました。とても欲張っています。ここまで来たのだから、あと一踏ん張りです。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞